



伊木まり子後援会ー生駒の未来をつくる会  
〒630-0261 生駒市西旭ヶ丘1-2 Tel & Fax 0743-71-6601  
E-mail: ikomanomirai@iris.eonet.ne.jp URL: http://www.eonet.ne.jp/



# 伊木まり子と 生駒の未来をつくる会ーニュース

第1巻 号外

発行日2007年7月14日

## 号外

- ・ 新病院建設に赤信号！
- ・ 管理運営の委託交渉先の医療機関から断りの返事
- ・ 100ベッドの小規模病院が生駒市の中核医療を担えるか
- ・ タイムリミットは来年2月。それまでに計画を県に出せなければ、病院は永久に×
- ・ 再度言おう！ 一日も早く市民の病院を

## トピックス

- ・ 生駒市の新病院建設構想が暗礁に乗り上げた。公設民営での病院を考え、運営委託先を探していたが、全候補から断られた。市が提示した構想は東生駒2丁目100床の小規模病院。この規模だと年間1億5千万円の赤字になると市は試算している。赤字が出るとわかっている小規模病院をいったい誰が引き受けるのだろう。市長は病院をつくる気があるのかと言いたくなる。

ホームページとブログもご覧ください!!  
<http://www.eonet.ne.jp/~ikomanomirai>

## 管理運営の委託交渉先医療機関から断りの返事！

7月5日、生駒市の新病院建設構想が暗礁に乗り上げたことが明らかになりました。市は公設民営での病院を考え、運営委託をする医療機関(指定管理者)と交渉してきましたが、全てから“受諾の意向なし”の回答があったと発表したのです。まり子議員は6月定例議会の一般質問で、8月の県医療審議会に病院計画を出さないと、病院ができない可能性があるこ

**新病院建設に赤信号！**

とを強調し、今まさに正念場であることを述べ、議会で十分審議可能な時期に病院計画を呈示するよう要請しました。市長の答弁は交渉は煮詰まりつつあるととれるもので、市民の期待もふくらみました。そこへ今回の発表です。市民は愕然とし、なぜだ、どうなっているんだ、と驚きと怒りの声がうずまいています。本号外では、11日に開かれた新病院設置等特別委員会での市長の答弁からわかったことをお知らせします。

## 黒字の新病院は計画変更で赤字に。受け入れ先はあるの？

7月5日、市が医療機関に新病院の構想を示した仕様書も明らかになりました。

本年2月、国保連合会が生駒市と生駒総合病院跡地の売却交渉を打ち切ると決定したため、市は予定地を東生駒2丁目の野村証券社員寮跡地に変更しました。面積、容積率から大きな建物は無理なので、ベッド数を196床から100床に縮小、診療科も当初の内科、外科、小児科、整形外科の4科から整形外科を除いた3科にしました。

建物と医療機器の整備費用は生駒市が、運営費は指定管理者が負担。市が依頼する政策医療分(小児科、救急など)の補助は別途協議。赤字全体の半分は生駒市が負担(ただし上限あり)し、黒字は両者で折半する、という内容です。

生駒市が先に示した経営予測では、196床の病院では6年後に黒字転換するということでしたが、100床では年間1億5千万円の赤字が出るとの答弁。最初から赤字になることがわかっている計画を受ける医療機関があるでしょうか。断ってくださいと言わんばかりの計画です。市民にとっても毎年赤字の半分、すなわち7500万円を負担し続ける計画が受け入れられるでしょうか。疑問は増すばかりです。

病院が安定した経営をするためにはそれなりの規模が必要です。小児科、救急などの経営上黒字を望めない科の収支を、黒字を出せる他科の報酬でカバーするのです。生駒市が出した196床での経営予測では黒字のはずでした。市民の負担を減らすためにも、黒字経営可能な案を出すべきです。



## 東生駒2丁目の土地で大丈夫か 活断層、訴訟、狭い

生駒市が予定地にした東生駒2丁目の土地の一部には活断層が走っています。また、この土地は土地開発公社が東コミュニティセンター用に9億円で取得したのですが、その取得に問題があるとの疑いから、市が買い取ることを差し止める

住民訴訟が起こされています。

動けない患者がいる病院なのに地震時の安全は保証されるのか？ 訴訟は支障を来さないのか？ 何より最大で150床が限度という狭い土地。用地はここしかないという立場で交渉は可能でしょうか？

## 新病院整備専門委員会の中間答申はどうなったのか？

昨年11月に設置された新病院整備専門委員会では、学識経験者、県医師会・地元医師会代表、医師、病院医事課長、中央社会保健医療協議会委員らが土曜・祝祭日を返上して議論し、1月13日、不足する医療の充足を中心にした新病院構想を中間答申として市長に提出しました。まり子議員も委員です。

中間答申では、196床のベッドを基本に、必須機能として、前述の4科以外に地域救急医療を支援する教育機能の整備、疾病予防機能の強化、病院運営に関する情報の開示なども盛り込まれ、要望項目としては、心筋梗塞、糖尿病への対応、心療内科、神経内科の充実、産婦人

科、脳神経外科設置もありました。病院経営の難しい時代でもこんなにいい病院ができましたよ、と生駒から全国に発信できるような魅力ある病院をつくろう、と意見が交わされたのでした。

しかし、それ以降、専門委員会に一度も諮ることなく、市は用地を変え、ベッド数を半減し、診療科も減らして、交渉を進めていたのです。

医療コンサルタントとの契約や委員の報酬に市民の税金を投入し、委員も多忙な年末年始に5回計17時間余りも討議を重ねた委員会は何だったのか。市は中間答申に即した交渉を行うべきだし、変更が必要なら委員会  
で審議すべきであったと考えます。



## 市長は本当に病院をつくる気があるのか？

11日の委員会で、市長は今後も新病院建設を模索すると答弁しました。しかし、交渉先が指定管理者を断った原因を取り除き、積極的に対応していこうとする態度は示しませんでした。年間予算320億の生駒市の身の丈に合わない投資はたとえ病院でも行わないという意向でした。それは当然です。問題は**政策医療中心の100床の小規模病院なら赤字は必至で、その半分は市民がかぶること**です。これは医療機関も市民も受け入れないでしょう。ここでは、市長は本当に病院をつくる気があるのか、と疑われてもしかたがあ

りません。

どのような病院構想であれば経営的にも安定し、市民に喜ばれる病院になるか検討し直すべきです。無駄のないスリムな市政を実現しつつ、病気にならないための予防医療を提供し、病気になっても日常生活を営みながら適切な治療を受けられる病院、子供もお年寄りも安心してかけられる身近な病院をつくる、そしてそれを基盤にして安心して暮らせる夢のある街づくりを、若い市長と関係者の英知を絞って実現していただきたいと切に願います。

## 再度、声高に叫ぼう！ 一日も早く市民の病院を！

今まで市議会には、病院建設にあからさまに反対する議員はいなかったものの、市と一緒に市民の医療を考えようという積極的な姿勢は見られませんでした。その理由は議会の一部にある山下市政への非協力ですが、市側にも交渉中であることを理由に市議会に病院構想を示さなかった問題がありました。このような状態では病院問題は解決しません。2月の医療審議会まであと6ヶ月。時間は残りわずかですが、少ない財政負担で市民の期待に沿った病院はできないのか、市議会と市が協力し合って検討しましょうと、まり子議員は11日の特別委員会で提案しました。今こそ市と市議会が一丸となって、市民のための病院建設に向け、あらゆる方策を検討す

べきです。そして、そのためにはそれを後押しする市民の大きな声が必要です。先の選挙でまり子議員を誕生させたみな様の大きな力が必要です。

残された時間は確かに少なくなりました。しかし、まだ病院建設が不可能になったわけではありません。みなさん、病院問題に注目してください。そして、**今一度叫びましょう、一日も早く市民の病院が必要だと。**

### 編集後記

ニュースNo5で6月定例議会の報告を後援会のみな様にはお届けし、駅前で市民のみな様にもお配りしようと思っていた矢先、この事態となりました。No5の配布は見合わせ、11日の新病院設置等特別委員会での市長の答弁を聞いた上で本号外を作ることにしました。23日には新病院整備専門委員会が開かれます。そこでの議論を踏まえ、この問題については再度詳しくお知らせします。(M.I.)